

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [浜松学院中学校] 担当教諭名 [鈴木 翔大・中澤 純一] (2年 A・B 組 30名)
 交流相手国 [ネパール]

海外学校名 [Shree Rudrepipal Secondary School] 担当教諭名 [Mamta Devi Sharma /伊藤理恵子(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	国際理解教育	53

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	To Understand the difference of cultures -Sharing the spirit of Festival-
絵に込めたメッセージ	静岡県浜松市に伝わる伝統的な祭りである浜松まつりと相手国ネパールのバグルン地方の伝統的な祭りである「ダサイン」に共通する「凧揚げ」、両国の象徴的な山を描くことで異文化間における共通点を意識した。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
アートマイル壁画の製作のみならず、長期間に渡って、相手校との交流を深める中で、英語の手紙や日本の行事の絵画やちぎり絵の製作をした。その結果、生徒が主体的に英語学習や異文化理解を学ぶ機会を得ることができた。また、英語の授業で学ぶ英語は、文法や長文読解など、定期試験や受験対策の学習になりがちだが、実際に相手校の生徒と英語で手紙の交換として英文を書き、スカイプ中継で会話を交わすことで、普段学んでいる英語が生きた英語に発展している様子が、生徒の取り組み状況から明らかとなった。	アートマイルプロジェクトに取り組んでいる1年間は、具体的目標をもって活動に取り組むことができた。しかし、年度単位の取り組みとして考えてしまうと、次年度以降に繋がらないので、本プロジェクトを起爆剤として、継続的に相手校と手紙の交換やスカイプなどで、繋がっていきたい。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>交流相手国であるネパールについては、生徒の大半は国名を知っていた。しかし、相手国の文化や習慣については、ほとんど知識としてなかったが、調べ学習や手紙の交換、スカイプを用いての交流を通し、生徒にとってネパールという国が身近なものとなった。さらに、本事業を通しネパールに限定するのではなく、世界の国々を眺めることで、世界の今日的課題といわれる貧困や国際協力、異文化理解、多文化共生などについて目を向けることができた。</p>	<p>生徒たちに ALT 以外の外国の方と話をしたり手紙のやり取りをする機会を与えることができ、生徒たちのいきいきとした姿が見られた。また、スカイプ中継のコーディネートがスムーズに行かず、生徒の実態や通信環境といった部分を考慮に入れた進行の必要性を感じた。そのほかにも、共同で制作作業を行うにあたっては、作業だけでなく、それを軸に様々な学習をすることでより有意義な活動ができるということを学んだ。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	5月 6月	手紙交換	「英語」の授業でも手紙を扱う場面だったため、併せて学習した。本校からの手紙には富士山や清水寺といった日本の観光名所、花火や七夕といった伝統行事などのイラストに塗り絵をし、併せて英文の手紙を送った。これにより、日本文化を学ぶこともできた。相手国からの手紙には紙の質の違いや写真の様子を見て日本との違いを理解した。	総合
テーマ学習	5月 6月	調べ学習(本・インターネット資料) 模造紙まとめ 文化祭における発表 ワークショップ	本事業の事前学習として、ブータン、ベトナム、ミクロネシア、ザンビアなど6か国の文化や習慣などについて探求学習を行った。さらに、本校で行われた文化祭において、ポスターセッション形式で発表をした。また、6か国の民族衣装を用意し、来場者に試着体験を行った。その結果、世界の様々な国に対する生徒の興味・関心を深めることができた。 ネパールの国を知るための導入学習として、教員がファシリテータとなって参加型学習(ワークショップ)を行った。参加型学習を取り入れることで、生徒はネパールと肯定的に出会うことができた。	総合
構図決定	10月	スカイプ中継	スカイプ中継を通して、伝統的な祭りがあること、更にもその内容に共通点があることを発見し、絵に描くアイデアを、リーダー中心にまとめた。	総合
壁画制作	11月 12月	壁画のデザイン及び制作 クリスマスカード	リーダーを中心に下書きをした。そして、リーダー以外の生徒も自主的に色塗りに参加し、結果的に、自主的に一人ひとりが参加する結果となった。なお、壁画を送る際にクリスマスカードも同封した。	総合

鑑賞・ 振り返り	2月	スカイプ中継 振り返りレポート サンキューカード ちぎり絵の製作	完成した絵を見て、生徒は感動していた。更にスカイプ中継の際も終了を惜しむ様子が見られた。振り返りレポートからも肯定的な意見も多く見られた。振り返りと共に、これまで手紙交換を行っていたネパールの中学生に対して感謝状を送り、ちぎり絵を製作することによって自国に伝わる絵を新たに知ることができた。	総合
-------------	----	---	---	----

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	相手校の生徒に本校の生徒一人ひとりが英語で手紙を書いた。その際、自国の文化や私たちが住む地域について紹介する文を書いた結果、自文化の理解促進に繋がった。
異文化の理解	A	5	相手校と交流をする前に、世界の国々の文化や習慣に関する調べ学習を行い、異文化理解の導入を行った。その後、ネパールに関するワークショップやネパール調べを行った。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	5	英語での手紙交換では、積極的に英語で自分の思いを伝えようとする姿勢がみられた。また、相手校の生徒から届いた手紙を読んで自分の英語が通じたこと、さらには交流の深まりを実感していた。一方、スカイプ中継については、事前学習として、グループ毎に当日話す英語の原稿作りに励むことができた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	交流相手国のネパールについて調べるのみならず、アートマイルの事前学習として、インドネシア、ベトナム、ザンビアなどの6か国の文化や習慣などについて探求学習を行い、生徒の情報収集能力及び発信能力が向上した。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	4	相手校の生徒から届く手紙に、生徒一人ひとりが感激し、ネパールは距離的には遠いが、心は近いと実感していた。
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	アートマイルの壁画のみならず、グループ毎に送るちぎり絵の製作なども行き、協働で一つのものを作る大切さを生徒は学ぶことができた。
学習を追究する意欲	A	4	通常、本校で行っている総合的な学習の時間では、テーマを決め調べ学習をし、レポートにまとめていく活動を行ってきた。しかし、本活動では生徒自身が行った取り組みに対して、相手校から反応があるので、生徒の学習意欲が深まった。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	5	スカイプ中継を通し、壁画のデザインについて事前打ち合わせをしたことで、デザイン構成のイメージが膨らみ、表現能力も向上した。
作品を鑑賞する力	B	3	事前打ち合わせの中で、相手校のデザインは漠然と捉えている程度だったが、完成した作品を鑑賞した時の感動は大きかった。